

令和6年2月18日

由利本荘プロモーション会議活動報告書

報告者：村松大地

チーム名	岩城イベント実行委員会
メンバー	村松（リーダー）、鈴木、佐々木、矢野、

企画名	おもしろえありんぐイワキビトフェス
企画概要	岩城会館にて映画上映、岩城総合体育館にて秋田スティーラーズ運営のもと、3×3のバスケ大会を開催
開催日時	令和5年10月7日映画上映・10月8日3×3バスケ大会
開催場所	岩城会館・岩城総合体育館
来場者数	映画上映19人・バスケ大会300人

収支決算

単位：円

収 入	予算額	決算額	備考
補助金	1,112,310	1,041,995	
その他収入	50,000	4,500	
合計	1,162,310	1,046,495	

支 出	予算額	決算額	備考
映画上映	359,000	469,000	
バスケット大会	380,000	465,000	
警備代	267,000	0	
ポスター	101,200	51,700	
ラジオ告知	0	33,000	
その他	55,110	27,795	
合計	1,162,310	1,046,495	

映画上映の写真



バスケット大会の写真



バスケ大会ダンスの写真



バスケ大会集合写真



事業の実施により、どのような効果が得られたか

映画上映では岩城会館の音響ポテンシャルを実感した。

バスケット大会では3 x 3 バスケットの認知度向上、本荘地域のみならず、能代市や横手市、岩手県からのチームも参加し、岩城地域で若者の活気を実感した。

スポーツをする若者は購買意欲も高い傾向が分かった。

課題とその解決方法

ラジオ告知、広報、SNSなど、予算内で使える限りのPRを行ったが、目標としていた集客人数に達することができなかった。本荘地域内だけでなく、秋田県内外への周知をする必要性を感じた。

また、メンバーのサービス労働時間は50時間以上費やした。

コストに見合ったリターンを得るためには、継続して大会を開催するだけでなく、地域内で完結せず、由利本荘市のイベントとしてPRする必要性を感じた。

プロモーション会議を通じて得た経験

高齢化した岩城地域のみで継続性のある集客、収益をあげることは不可能であり、由利本荘市でなく、他地域からの集客にコストをかけるべきと実感した。また、由利本荘市としての魅力は何かを見つける必要がある。岩城の人間でなく、由利本荘市民という意識を根付かせていく必要性がある。

(事業を継続するチームのみ)

令和6年度も事業を継続するにあたって改善点と抱負

イベントを継続するにあたり、スポンサーを募り、自力で運営していく形を模索する。また、運営メンバーが無給労働にならないようにやりがいを見つけていく。